

# 「副業先生」学校に現る

働き方 innovation

一つの仕事で満足ですか ⑦

## 報酬発生、双方に緊張感

副業をする人が増え、選べる仕事の幅が広がってきた。もう一つの職場として、学校など教育現場を選ぶ人が出てきている。教育現場は外から飛び込むにはハードルが高い印象があるが、やりがいがある、自身の成長にもつながる。受け入れる学校や生徒たちの意識にも変化が起きている。

「プレゼンって型を覚える」と意外に使えるんです。例えば『お小遣い上げて』とお願いする場面。1月下旬、英理女子学院高校(横浜市)の教室。上原正太郎さん(46)は40人ほどの生徒を前に授業に臨んでいた。担当するのは課外授業「グローバルプレゼンテーション講義」だ。

外資大手に勤めながら、副業で講師をする。授業では生徒が皆の前で話す実践の時間を大切にしている。「スライドを見たくなくなるけれど、目線はもっと皆の方に向けてみよう」「データの引用元を書くのはいいね」。SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに発表を聞き、よかった点、改善点を指摘していく。最終的に英語でプレゼンできるようになるのが目標だ。上原さんは米国で大学を卒業後、自動車メーカーやIT(情報技術)企業でキャリアを積んだ。「副業に関心があり、募集サイトが偶然目に留まった。教えた経験はないが、プレゼンは仕事でしてきたこと。私自身学ばせてもらいながら新しい経験ができればと思っ」と応募時を振り返る。

この高校を運営する高木学園は国際舞台で活躍する人材を育てる「iグローバル部」新設を機に民間人材を招こうと決断。2019年に人材サービスのピズリイチ(東京・渋谷)の協力で副業に限定して募った。このポストへの応募はなんと150人。学園の高木暁子



プレゼンテーションの授業をする上原正太郎さん(横浜市の英理女子学院高校)

## 応募殺到、生徒と化学反応

理事長は「副業限定がよかったのかもしれない。これだけ優秀な方々とは普通なかなか会えない」と驚く。上原さんからプレゼンを学び、校外での研究発表で好成绩を収めた2年生の高野優花さん(17)は「話の間の取り方や資料の作り方などいつも真摯に答えてくれた。上達するのが自分でも分かってうれい」。上原さんも「彼女たちの多様な視点に気付かされることが多く、本業にも生きている。ボランティアではなく、仕事だからこそその緊張感もある」と語る。

これまでも総合学習や部活動など様々な形で外部人材の協力を求めてきた学校は多い。ただ住民や教員の知人などツテをたどってボランティアで依頼するケースが大半。無報酬だと「善意でしているのだから」と学校側も協力する側も注文を付けにくく、質の追求が難しい面があった。

副業で仕事となれば、互いに意識が変わる。だが協力したい人がいても「学校の接点がない」「ニーズに合う知識やスキルが自分にあるか分からない」といった声が聞かれる。学校側も「外部の人が学校に入る」「協力者にお金を払う」とこへの抵抗感は根強い。社会人と学校の間を隔てる壁はまだ高い。

そんな両者をオンラインで結び付けるサービスが20年6月に始まった「複業先生」。LXデザイン(東京・千代田)が運営する。講師希望者は教えられる分野

を無料で登録し、学校は求めるスキルや報酬などを掲載。互いのニーズが合えば、授業内容や条件について打ち合わせし、先生としてデビューする流れだ。

静岡県下田市でウェブデザイナーとして働く藤井瑛里奈さん(24)は市立下田東中学校で「下田を再発見する」授業の講師を引き受けた。地元の魅力を写真や映像などを使って発信する方法を学ぶ。「私自身、下田が好きな人を増やす活動をしていて、授業内容とピタリだった」と明かす。経験を生かせるキャリア教育の講師も需要が多い。NNT東日本で働く小林千夏さん(31)は富山県立滑川高校の授業の講師をオンラインで務めた。「学校との縁ができるのはいい。自身の成長にもつながる」。オンライン授業なら副業先の選択幅も広がる。

滑川高の小柴憲一教諭は「生徒にとって第一線で働く社会人との接点は貴重。高校で開発した商品の広告戦略で助言を求めるような活用方法もあるかもしれない」と期待を口にしている。

LXデザイン社長の金谷智さん(30)は教員経験を経て起業。「教育に関わりたい人は多い。副業なら仕事を辞めなくてもできる」と考える人を呼び込めば、学校の抱える課題解決の助けになるはず」と意気込む。

副業に詳しい法政大学大学院の石山恒貴教授は「副業者自身はもちろん、学校や生徒にも化学反応が起きる『三方よし』になる可能性がある」と語る。一方で「現場に入る前に目標や理念をすり合わせておく必要がある。そのためにも仲介役の存在がカギになる」と指摘する。(河野俊)

〓この項おわり

### 学校・教育現場で活躍する副業人材

